

令和3年度経営協議会における審議事項

開催日	審 議 事 項 等
(第89回) 6月22日(火)	1. 審議事項 (1) 令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について (2) 令和2事業年度決算(案)について (3) 第4期中期目標(素案)・中期計画(素案)の策定について (4) 学長選考会議委員の選出について (5) 令和3年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について 2. 討議事項 (1) 「福大ビジョン2040」の策定について (2) 医学部附属病院の経営状況等について 3. 報告事項 (1) 令和2年度福井大学卒業生・修了生の進路状況について (2) 令和3年度入学者状況について (3) 令和2年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について (4) 福井大学データ科学・AI教育研究センターの設置(案)について (5) 福井大学ネーミングライツ事業の実施について (6) 福井大学基金について (7) 令和3年度会計監査人の選任について (8) 令和2年度資金運用に係る報告について (9) 本学の取組みに関する最近の記事について 4. その他 (1) 新型コロナウイルス感染症ワクチン予防接種について
(第90回) 10月25日(月)	1. 審議事項 (1) 令和3年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について (2) 令和2事業年度における剰余金の目的積立金化等について 2. 討議事項 (1) 医学部附属病院の経営状況等について 3. 報告事項 (1) 福井大学基金について (2) 第3期中期目標期間評価(4年目終了時評価)結果及び分析について (3) 令和3年度上半期資金運用に係る報告について (4) 本学の取組みに関する最近の記事について 4. その他 (1) 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について
(第91回) (書面審議) 1月11日(月)	1. 審議事項 (1) 国立大学法人の中期目標についての意見(原案)について

<p>(第92回) 1月21日(金)</p>	<p>1. 審議事項 (1) 福井大学研究代表者等(P I)人件費制度の導入(案)について (2) 国立大学法人福井大学業務方法書の改正について</p> <p>2. 討議事項 (1) 医学部附属病院の経営状況等について</p> <p>3. 報告事項 (1) 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について (2) 本学の取組みに関する最近の記事について</p> <p>4. その他</p>
<p>(第93回) (書面審議) 2月7日(月)</p>	<p>1. 審議事項 (1) 決算剰余金における第4期中期目標期間への繰越について</p>
<p>(第94回) 3月14日(月)</p>	<p>1. 審議事項 (1) 社会共創機構設置に伴う関係規程の制定・改正(案)について (2) 福井大学 SDGs 推進室の設置(案)について (3) 国立大学法人福井大学法人規則等の改正(案)について (4) 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正(案)について (5) 令和4年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請(案)について (6) 令和4年度学内予算配分(案)について</p> <p>2. 討議事項 (1) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の自己点検について (2) 医学部附属病院の経営状況等について</p> <p>3. 報告事項 (1) 福井大学基金について (2) 本学の取組みに関する最近の記事について</p> <p>4. その他</p>

第89回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和3年6月22日(火) 13:30~16:00

場 所 福井大学本部棟2階 会議室(文京キャンパス)

出席者(学外委員は全員Webにて出席)

(学外委員 7名) 伊藤正一、川田達男、小松弥生、鈴木寛、笹田昌孝、高岡信也、藤林康久

(学内委員 8名) 上田孝典、安田年博、末信一朗、松木健一、花島信、大嶋勇成、明石行生、
内木宏延(Webにて参加)

欠席者

(学外委員 2名) 江守康昌、中村保博

陪席者

峠岡監事、佐野監事、山本教育学部長、藤枝医学部長、福井工学部長、
岡崎国際地域学部長、木村国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、
窪田参与、及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、15名の出席により定足数を満たしていることが確認された。(定足数:委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条)
また、学長から新委員の紹介があった。

2. 第88回会議議事要旨の確認について

学長から、第88回会議について確認後、了承された。

3. 審議事項

(1) 令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

理事(教育、評価担当)から、資料1に基づき、令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、今後の修正等については学長に一任することで了承された。

(2) 令和2事業年度決算(案)について

理事(総務・財務担当)から、資料2に基づき、令和2事業年度決算について説明があり、今後の修正等については学長に一任することで了承された。

—主な意見—

(○学外委員、□学内委員意見。以下同じ)

○繰越金があるとのことだが、大学の運営上、特に学生に対する教育等にマイナスの影響は出ていないのか。

□新型コロナウイルス感染症が拡大した当初、休講せざるを得なかったが、その後オンライン講義の開講、そして次第に対面講義を再開していくという形で、学生の教育には十分配慮している。オンライン講義にかかる費用は、コロナ禍により来学できず、執行されなかった非常勤講師の旅費予算を充てるなどし、学生の負担にならないようにした。

(3) 第4期中期目標(素案)・中期計画(素案)の策定について

理事(企画戦略担当)から、資料3に基づき、第4期中期目標(素案)・中期計画(素案)の策定について説明があり、今後の修正等については学長に一任することで了承された。

—主な意見—

- 地方国立大学の役割について、国立大学が新制大学として設立した時から今までに、大学関係者と国との間で期待する方向性が若干違ってきた。その違いを、大学の存続のためにどう読み替えるかが大学の自治の本質である。東京一極集中を解消するため、ぜひ地方国立大学にはその地域の人材育成を、本気で担っていただきたい。
- 第3期までは、地域への貢献について、ある程度できてはいるが、ターゲットがはっきりと地域だけに向いているわけではなかった。しかし、第4期では、より地域に対する視点がはっきりしており、地域のステークホルダーにしっかり狙いを定め、地域を活性化することを目的として活動しようとしている。
- 福井大学に限らず、教育学部の学生の国際感覚というのが若干少ないと感じているため、大学において、教育学部の学生をもっと海外に派遣する機会を増やしていただきたい。また、項目として選択されていないが、これからの社会を考えると、若手、女性、外国人などの多様性を高めることに力を入れた方がよい。今後、福井大学が、より他の大学の学生や研究者から選ばれる大学でなければならないという競争の時代に入ってくるので、それを念頭に置いた上で大学を強化し、選ばれる大学になるにはどうすればよいかということを考えていく必要がある。
- 国際化については、アメリカのラトガース大学やクレムソン大学と協定を結び、合同講義等を行っている。また、若手、女性、外国人等については様々な支援を実施しており、大綱としては選択していないが、今後ダイバーシティ化という観点から、本学としての活動を続けていく。
- 県内若年人口が著しく減少する中で、福井大学の使命は、県内唯一の国立大学として地域経済や産業をリードする人材の育成と地域課題に根ざした研究の推進を、これまで以上に充実強化していくことにあると考える。是非全学一致体制の下で本計画を実行に移していただきたい。

(4) 学長選考会議委員の選出について

理事（総務・財務担当）から、資料4に基づき、学長選考会議委員の選出方法について説明があり、伊藤委員・川田委員・高岡委員・藤林委員の4名が選出された。

(5) 令和3年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について

学長から、資料5に基づき、令和3年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について説明があり、了承された。

4. 討議事項

(1) 「福大ビジョン2040」の策定について

学長から、資料6に基づき、「福大ビジョン2040」の策定について説明があった。

—主な意見—

- 具体的な将来像を定め、そのためにどうすべきかと考えたときに、教育や研究など、様々な課題の具体的な方針が出てくる。しかし一方で、もっと世界に目を向けたときに、その課題は人であり、社会であり、環境である。若い人たちが実際に活躍するときは、大学のためではなく、広く世界に貢献することに目を向けているので、もう少しそういった視点があってもよいのではないか。

(2) 医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料7に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

5. 報告事項

(1) 令和2年度福井大学卒業生・修了生の進路状況について

理事（教育、評価担当）から、資料8に基づき、令和2年度福井大学卒業生・修了生の進路状況について報告があった。

- (2) 令和3年度入学者状況について
理事（教育，評価担当）から、資料9に基づき、令和3年度入学者状況について、報告があった。
- (3) 令和2年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について
理事（研究，産学・社会連携担当）から、資料10に基づき、令和2年度外部資金の受入状況及び知的財産活動について、報告があった。
- (4) 福井大学データ科学・AI教育研究センターの設置（案）について
理事（教育，評価担当）から、資料11に基づき、福井大学データ科学・AI教育研究センターの設置について報告があった。
- (5) 福井大学ネーミングライツ事業の実施について
理事（企画戦略担当）から、資料12に基づき、福井大学ネーミングライツ事業の実施について報告があった。
- (6) 福井大学基金について
学長から、資料13に基づき、福井大学基金について報告があった。
- (7) 令和3年度会計監査人の選任について
理事（総務・財務担当）から、資料14に基づき、令和3年度会計監査人の選任について報告があった。
- (8) 令和2年度資金運用に係る報告について
財務部長から、資料15に基づき、令和2年度資金運用の状況について報告があった。
- (9) 本学の取組みに関する最近の記事について
学長から、資料16に基づき、本学の取組みに関する最近の記事について、お目通し願いたい旨、案内があった。

6. その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

—主な意見—

- 先ほど意見があった、ダイバーシティや国際化といったことは非常に大事であると思うので、ぜひ力を入れてやっていただきたい。
- コロナ禍の厳しい中、大変な時期を乗り越え、ワクチン接種もスタートできたことは、非常に良かった。今後、色々なことが正常化してくるかとは思いますが、引き続き1、2年生のメンタルケアをしっかりとやっていただきたい。
- ステークホルダーという言葉が頻繁に出てきたが、目標によりそのステークホルダーは大きく異なってくる。ぜひ大学の組織の中で、一つ一つのテーマを整理するときに、ステークホルダーを最大化できる方法は何かということを考えるような組織、体制を考えてもらいたい。
- 国立大学協会の会議等でも、ステークホルダーとは何かということがしばしば議論になっている。またしっかりと検討したい。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、次回開催については、調整の上、後日連絡する旨案内し、閉会した。

第90回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和3年10月25日(月) 13:30~15:30

場 所 福井大学本部棟2階 会議室(文京キャンパス)

出席者(学外委員は全員Webにて出席)

(学外委員 9名) 伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、鈴木寛、笹田昌孝、高岡信也、中村保博、藤林康久

(学内委員 8名) 上田孝典、安田年博、末信一郎、松木健一、花島信、大嶋勇成、明石行生、内木宏延

陪席者 峠岡監事、佐野監事、山本教育学部長、藤枝医学部長、福井工学部長、岡崎国際地域学部長、木村国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、窪田参与、及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、17名全員の出席により定足数を満たしていることが確認された。(定足数:委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条)

2. 第89回会議議事要旨の確認について

学長から、第89回会議について確認後、了承された。

3. 審議事項

(1) 令和3年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について

学長から、資料1に基づき、令和3年度国立大学法人福井大学ガバナンス・コード報告書の作成について説明があり、今後の修正等については学長に一任することで了承された。

(2) 令和2事業年度における剰余金の目的積立金化等について

理事(総務・財務担当)から、資料2に基づき、令和2事業年度における剰余金の目的積立金化等について説明があり、今後の修正等については学長に一任することで了承された。

4. 討議事項

(1) 医学部附属病院の経営状況等について

副学長(医療担当)から、資料3に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

—主な意見—

(○学外委員、□学内委員意見。以下同じ)

○昨年度はインフルエンザが非常に少なかったように聞いているが、今年度のインフルエンザの流行や予防接種についてはどのような状況か。

□昨年度は海外からのウイルスの持ち込みが大きく減ったことで、インフルエンザの流行が抑えられていた。今年度は、今後海外との交流が徐々に解除されてくると、時季外れでインフルエン

ザが流行する可能性がある。また、予防接種について、ワクチンは例年通り供給されてきており、通常通り予防接種を進めていけるのではないか。なお、昨年度同様、学生の予防接種に対する補助を実施する予定である。

5. 報告事項

(1) 福井大学基金について

学長から、資料4に基づき、福井大学基金について報告があった。

(2) 第3期中期目標期間評価（4年目終了時評価）結果及び分析について

理事（教育、評価担当）から、資料5に基づき、第3期中期目標期間評価（4年目終了時評価）結果及び分析について、報告があった。

—主な意見—

○今回の結果は、トータルとして高い評価を受けているということによいか。また、福井大学の問題点や、これから取り組まなければならないことなどが、明確に分かっているのか。

□前回は全国立大学の中でほぼ中位であったのが、今回は上位3割の中に入った。そういう意味では高い評価を受けたと思っている。また、評価を作成するにあたり、当然不十分な点についても見えている。その点についても、学内で自己点検を進め、改善に向けた取り組みを実施している。

○教育の項目が全国で7番目だったということは大変素晴らしいことである。このことは是非県内外の関係者にしっかりと周知をしていただきたい。また、「教育活動の状況」と「教育成果の状況」という項目があるが、これはどう違うのか。そしてこれらはどのように評価されるのか。

□「教育活動の状況」は例えば教育課程の編成や、いわゆるDP、CP、APといった教育の中身が評価の対象になる。一方、「教育成果の状況」については、例えば就職率であるとか、学生からのアンケートといった様々なアウトカムのものが評価の対象になる。この活動状況と教育成果について、どのように評価をされているのかということについては、我々も具体的に把握できていない。今後分析を進め、具体的に検討していきたいと考えている。

○次の期に向けて、卒業生が福井県内に留まるような取組を検討いただきたい。

□県内就職等については、本学でも鋭意検討しているところであり、また色々と相談しながら協力していきたい。

(3) 令和3年度上半期資金運用に係る報告について

財務部長から、資料6に基づき、令和3年度上半期資金運用に係る報告について、報告があった。

(4) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料7に基づき、本学の取組みに関する最近の記事について、お目通し願いたい旨、案内があった。

6. その他

(1) 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種について

学長から、資料8に基づき、本学における新型コロナウイルス感染症ワクチン接種の実施について、報告があった。

(2) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

—主な意見—

- 実就職率において国立大学で14年連続1位を獲得するという事は、非常に難しいことである。これを続けているということは、やはり何らかの努力をしてきた結果だと思うが、具体的にはどういった点がこういった1位に繋がっているのか。
- キャリア支援課が「おせっかい」をモットーに、非常に熱心に学生と対峙し、非常に細かい点まで面倒を見るという活動を行っている。また、企業との説明会なども非常に重点的に行っている。
- 国立大学なので困難かもしれないが、ぜひ福井大学においては、福井県出身の学生の入試枠を強化する、あるいは県においても、県内に留まった人に対するフリンジベネフィットのようなものを準備いただきたい。また、やはりもっと企業のことを知ってもらわなければならないので、大学と企業との共同研究等を通して、そういった取組みを強化していかなければならないと感じた。
- 評価等について、順位を付けるのが良いかどうかは別として、順位が付くのであれば1番を目指した方が良い。例えば1位の大学について、詳細にはわからないかと思うが、そういった高い評価を得ている大学は何をやっているのか、外部からどのような人材を入れどのような知恵を享受しているかなど、そういったところも少しリサーチしてみると良い。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、次回は、令和4年1月21日（金）に開催する旨案内があり、閉会した。

第91回国立大学法人福井大学経営協議会書面審議議事要旨

発送 令和4年1月11日（火）

承認 令和4年1月19日（水）

（学外委員 9名） 伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、鈴木寛、高岡信也、中村保博、藤林康久

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、松木健一、花島信、大嶋勇成、明石行生、内木宏延

審議事項

1. 国立大学法人の中期目標についての意見（原案）について

資料1に基づき、書面審議した結果、委員からの異論は無く、軽微な修正等があった際は学長に一任することとし、原案のとおり了承された。

（主な意見）

- ・福井県嶺南地域の振興について、地域振興の責任はあくまで福井県、地域の行政であって、表現的に若干踏み込み過ぎではないか。
- ・「マイナンバーの活用」について記載があるが、中期目標として達成できる範囲でマイナンバーカード利用法の可能性に言及することは可能か。

第92回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和4年1月21日（金）13:30～15:00

場 所 福井大学本部棟2階 会議室（文京キャンパス）

出席者（学外委員は全員Webにて出席）

（学外委員 8名） 伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、鈴木寛、笹田昌孝、高岡信也、藤林康久

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、末信一郎、松木健一、花島信、大嶋勇成、明石行生、内木宏延

欠席者 中村保博

陪席者 峠岡監事、佐野監事、山本教育学部長、藤枝医学部長、福井工学部長、岡崎国際地域学部長、木村国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、窪田参与、及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、16名の出席により定足数を満たしていることが確認された。（定足数：委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条）

2. 第90回会議、第91回会議（書面審議）議事要旨の確認について

学長から、第90回会議及び第91回会議（書面審議）議事要旨について確認があり、了承された。その後、理事（企画戦略担当）から、第91回会議（書面審議）での意見について補足説明があった。

3. 審議事項

（1）福井大学研究代表者等（PI）人件費制度の導入（案）について

理事（研究、産学・社会連携担当）から、資料1に基づき、福井大学研究代表者等（PI）人件費制度の導入について説明があり、了承された。

—主な意見—

（○学外委員、□学内委員意見。以下同じ）

○科研費でこの制度を適用することは可能か。また、対象となっている研究費の研究分担者も対象か。

□科研費はこの制度の対象外である。また、対象の研究費であれば研究分担者も利用できる。

○この制度の説明を聞くと、まるで間接経費のように感じた。人件費として計上することで捻出された運営費交付金で、臨時の教員等を雇用するということであれば分かるが、そうではなく大学全体の研究経費や他のプロジェクトに使用されるのであれば、説明ができず、利用する研究者もあまりいないのではないか。

□これは間接経費の考え方とは異なる制度である。こういった制度は、既に他の大学で導入されている事例も多数あるが、この制度を必ず適用しなければならないということではないので、各研究者の受け止め方次第だと思う。捻出された運営費交付金の使途についても、あくまでも研究のための環境整備に使用するという活用方針があるので、研究者としては、大きな意味で自身にも還元されると解釈いただきたい。

(2) 国立大学法人福井大学業務方法書の改正について

理事（総務・財務担当）から、資料2に基づき、国立大学法人福井大学業務方法書の改正について説明があり、了承された。

—主な意見—

- 今後、年度毎の評価の作成は必要ないのかもしれないが、一つの計画について、ある程度の年度毎のスケジュールの作成は当然続けていくという理解でよいのか。
- その理解で差し支えない。これまでのように年度ごとに報告書を提出する必要がなくなったというだけで、そのような備えをすることは当然だと考えている。

4. 討議事項

(1) 医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料3に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

—主な意見—

- 新型コロナウイルス感染症について、予想以上の第6波が来ていると思うが、経営上の影響はありそうか。
- 福井県と協議し、本院においてはまだコロナ病棟を開設しなくても良いという状況になっている。ただこれだけ流行すると、医療従事者の家族等が濃厚接触者になったという報告も入ってきており、職員の勤務制限を考えなくてはならないということが一番の懸念事項である。また、こういった状況下ではなかなか手術を承諾してもらえず、1月以降の病床稼働率等の回復が難しいという状況が生じている。

5. 報告事項

(1) 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について

理事（教育、評価担当）から、資料4に基づき、令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

—主な意見—

- これまでに比べ、高い評価を受けたということは非常に良いと思うが、これに満足することなく、さらに上を目指した方が良いのではないかと感じた。
- 他大学の様々な取組等を参考にしながら、さらに質の向上を図れば、結果的に評点が上がるのではないかと考えているので、今後も全学を上げて質の向上に励みたい。経営協議会の委員の方々にもまた色々ご意見をいただきたいと思う。
- 今後地方の国立大学がどのように生き残っていくかという意味で、福井大学の特色ある取組が、評価員の目に留まったという点では大変良いことである。まさに大学経営として成功している事例である。

(2) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料5に基づき、本学の取組みに関する最近の記事について、お目通し願いたい旨、案内があった。

6. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

—主な意見—

○企業の場合は、例えば人事評価や組織の評価で高評価を得ると、その組織の長の報酬にそれが還元されるということがある。大学の場合、評価によるランキングがどのような目的で作成されているのかよくわからないが、できればこの評価を、学長の何か報酬に結びつけると良いのではと思った。

□報酬への反映は難しいが、前回会議の報告でもあったように、各学部の教育における評価は全国で7位であったので、こういった結果をなるべく外部にアピールし、受験生確保に繋げたいと考えている。また、せっかく高評価を受けたので、それをいかに活用するかについても検討しているところである。

○日本が今後抱える課題は様々あり、それらの問題を考えたときに、福井大学のような地方の大学への期待は極めて大きい。福井大学には、入学したいと思わせる魅力のある要素がたくさんあるので、今後若い人が福井大学を通じ、この福井県の素晴らしい環境の中で、日本の一つの大きな見本を作っていくために、ぜひ大きな夢をもって奮闘してほしい。福井大学は非常に大きく発展する可能性があるので、こういった機会に色々とアピールしていただき、ますますの発展を期待している。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、今回は、令和4年3月14日（月）に開催する旨案内があり、閉会した。

第93回国立大学法人福井大学経営協議会書面審議議事要旨

発送 令和4年2月7日（月）

承認 令和4年2月14日（月）

（学外委員 9名） 伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、笹田昌孝、鈴木寛、高岡信也、
中村保博、藤林康久

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、松木健一、花島信、大嶋勇成、明石行生、
内木宏延

審議事項

1. 決算剰余金における第4期中期目標期間への繰越について

資料1に基づき、書面審議した結果、委員からの異論は無く、原案のとおり了承された。

第94回国立大学法人福井大学経営協議会議事要旨

日 時 令和4年3月14日（月）13:30～15:40

場 所 福井大学本部棟2階 会議室（文京キャンパス）

出席者（学外委員は全員Webにて出席）

（学外委員 5名） 伊藤正一、江守康昌、川田達男、小松弥生、高岡信也、

（学内委員 8名） 上田孝典、安田年博、末信一朗、松木健一、花島信、大嶋勇成、明石行生、
内木宏延

欠席者 鈴木寛、笹田昌孝、中村保博、藤林康久

陪席者 峠岡監事、佐野監事、山本教育学部長、藤枝医学部長、福井工学部長、
岡崎国際地域学部長、木村国際地域マネジメント研究科長、舟木参与、
窪田参与、及び関係部課長等

1. 会議の成立について

議題に先立ち、事務局より、構成員17名のところ、13名の出席により定足数を満たしていることが確認された。（定足数：委員の3分の2 国立大学法人福井大学経営協議会規則第7条）

2. 第92回会議、第93回会議（書面審議）議事要旨の確認について

学長から、第92回会議及び第93回会議（書面審議）議事要旨について確認があり、了承された。

3. 審議事項

（1）社会共創機構設置に伴う関係規程の制定・改正（案）について

理事（研究、産学・社会連携担当）から、資料1に基づき、社会共創機構設置に伴う関係規程の制定・改正について説明があり、了承された。

—主な意見—

（○学外委員、□学内委員意見。以下同じ）

○社会共創機構に留学生定着支援部という組織があるが、ここは具体的にどのようなことを行うのか。

□留学生が卒業する際、そのまま帰国させるのではなく、福井県への定着を促進する活動等を行う。

○大学として人材育成等に取り組むのは良いことだと思うが、産業振興や地域創生といった地域振興は自治体が行うことである。大学がそこまで踏み込んで、特に嶺南地域について支援する理由が何かあるのか。

□共創活動にも様々あるが、地域の産業にまで踏み込んで行かなければ、なかなかその地域との関係を築きにくいところがあり、嶺南地域においても学部組織単位で連携をしてきたところである。また、昨今大学の評価の際、社会貢献が極めて重視される状況にあり、特に市町との連携が重視されるが、嶺南地区との連携は嶺北地区に比べ弱いということもあり、嶺北地域の活性化に努めつつ、嶺南地域についても、全学共通の目標をもって改めて声を上げたものである。

○嶺南地域共創センター規程に「ステークホルダー」という記載があるが、これは具体的にどういったものを指すのか。

□想定されるものとしては、自治体や地域の住民等様々あると思うが、幅広に解釈する方が良い。具体的に指し示すよりも、ステークホルダーという言葉で幅広に示す方が、より対象が広がるので、この規程ではそういった意味で用いている。

(2) 福井大学SDGs推進室の設置（案）について

理事（企画戦略担当）から、資料2に基づき、福井大学SDGs推進室の設置について説明があり、了承された。

—主な意見—

○SDGsのエネルギーに関する項目と、地球温暖化対策のカーボンニュートラルについては、もう次元が違うことだと感じている。SDGsに取り組むことは非常に良いことだが、カーボンニュートラルに対する取り組みの中で、地球温暖化対策にも取り組んではどうか。

□現在本学では、カーボンニュートラル推進のためのプロジェクトチームを立ち上げるところである。カーボンニュートラルに関し、大学としてはキャンパスにおけるゼロカーボンの推進に限らず、イノベーションに関する貢献による社会実装といったところで、地域産業等の役に立ちたいと考えている。

○SDGs推進室規程に、「SDGs推進に係る具体的方策の計画及び実施に関すること」とあるが、例えば今後の年度毎の計画等は作成しているのか。

□既にいくつかの計画は具体的に進んでいる。例えば、福井県のSDGsを推進する「福井県SDGsパートナーシップ会議」に参画し、県と共に取り組んでいくことや、福井銀行との連携を進めていくこと等を考えている。

(3) 国立大学法人福井大学法人規則等の改正（案）について

理事（総務・財務担当）から、資料3に基づき、国立大学法人福井大学法人規則等の改正について説明があり、了承された。

(4) 国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正（案）について

理事（総務・財務担当）から、資料4に基づき、国立大学法人福井大学職員就業規則等の一部改正について説明があり、了承された。

(5) 令和4年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請（案）について

理事（総務・財務担当）から、資料5に基づき、令和4年度長期借入金および償還計画にかかる認可申請について説明があり、了承された。

(6) 令和4年度学内予算配分（案）について

理事（総務・財務担当）から、資料6に基づき、令和4年度学内予算配分について説明があり、了承された。

—主な意見—

○大学として、海外大学との共同研究といった連携があれば、運営費交付金の獲得について、もう少し上を目指せる可能性はあると思うが、その点についてはどうか。

□現在はコロナ禍で滞っているが、附属国際原子力工学研究所や遠赤外領域開発研究センター等ではクロスアポイント制度により海外の研究者を招聘し、国際共同研究を進めてきており、これまでも国際共著論文の実績はある。今後もこういったところを強化していかなければならないと考えているが、コロナ禍により思うように進んでいない状況である。また、本学では今後、さらにダイバーシティを推進する制度を開始する予定であり、この効果も期待できると考えている。

4. 討議事項

(1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の自己点検について

理事（教育，評価担当）から概要説明後、データ科学・AI 教育研究センター長から、資料7に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの自己点検について説明があり、意見交換が行われた。

—主な意見—

- このプログラムは、入門の2科目のみか。
- さらにこの上のレベル認定プログラムがあるが、それについては、今回のレベルの教育プログラムが認定され、さらにその実績を積まなければ申請できないので、まずはこの内容での申請となる。
- 大学教育において、こういった領域の講義というのは以前から行っており、これらはある種のリテラシー教育なので、例えば今後、高校での教育内容とかなり重複することがあると思うが、その時に、大学が改めてこういったプログラムを提供することについて、どのように考えているのか。
- 教育課程が変更になり、同様の内容を高校で学習することになれば、当然このモデルコアカリキュラムの内容も改正されると思っている。そうなれば、本学の認定プログラムもそれに応じて変更しなければならないということは、当然認識している。そのため、今後実際の教育内容を注視しながら、このモデルコアカリキュラムが改正された際には、直ちに対応できるよう常に準備しておきたいと考えている。
- データサイエンス教育に関し、滋賀大学に修士課程として非常に良いプログラムがある。もしも福井大学にもこういった素晴らしいプログラムがあれば、我々もどんどん社員を派遣したいと思う。また、我々は滋賀大学がどのようなことをやっているかを学んでくるので、是非また情報共有ができれば良いと考えている。
- 本学では昨年度、データ科学・AI 教育研究センターを設立しており、今後、社会人に向けた教育プログラムも提供していくことになると思う。今回の教育プログラムが認定されれば、このことが福井大学でしっかりした数理データサイエンス教育を実施しているという提示にも繋がると思うので、まずはこのプログラムの認定を受け、さらに上のレベルの認定を目指しながら、一方では研究も進めていく予定である。
- 今後多様な講義の中で、このデータサイエンスを使った学びや研究が行われる方向にもっていく必要があると思っている。そのためには、大学の教員だけではなく、小中高の教員も皆が使いこなせる必要があるので、教員養成に力を入れている福井大学としては、是非教員養成課程においても、この数理・データサイエンス・AI 関連の教育に力を入れていただきたい。
- まさにこのデータサイエンスについては基礎のレベルで、全ての学生がある程度できなくてはならないので、最終的にこのリテラシーについては全学必修化を目指している。教員養成に関しては、教育学部の中でも今後、教職科目としてかなりのウエイトをもって実施されていくことになるであろう。

(2) 医学部附属病院の経営状況等について

副学長（医療担当）から、資料8に基づき、医学部附属病院の経営状況等について説明があった。

—主な意見—

- 新型コロナウイルス感染症について、福井県でもこのような厳しい状況になり、ワクチン接種率の問題と、検査が追い付いていないことが懸念される。また、福井県のコーディネートセンター

はどのような状況か。

□ワクチン接種率が低調なのは事実だと思う。それ以上に、検査が追いついていないところが大きく、以前に比べ検査に時間がかかっており、その間に家庭内で感染が拡大している状況が続いており、この点が非常に問題であると感じている。また他府県同様、福井県もコーディネートセンターはかなりひっ迫しており、受入れ先の病院と十分な情報共有ができず、以前ほどスムーズに運用できていない状況である。

5. 報告事項

(1) 福井大学基金について

学長から、資料9に基づき、福井大学基金の状況について報告があった。

(2) 教員養成フラッグシップ大学の選定結果について

理事（企画戦略担当）から、追加資料に基づき、本学が教員養成フラッグシップ大学として指定されたことについて報告があった。

—主な意見—

○福井大学のプログラムは、全国の多くの大学との連携プログラムであることが大事な点であり、また、今回採択された4大学の中で、唯一の総合大学であるということも、結果として重要な意義がある。今後福井を中心に、教員養成の新しい取組が全国に波及していくことを期待している。

(3) 本学の取組みに関する最近の記事について

学長から、資料10に基づき、本学の取組みに関する最近の記事について、お目通し願いたい旨、案内があった。

6. その他

(1) その他

学長から、委員に対し、全体を通しての意見聴取があった。

7. 閉会

学長から謝辞が述べられ、今回は、令和4年6月6日（月）に開催する旨案内があり、閉会した。